

【実施日： 令和3 年 3 月 18 日】

(評価基準) A：取り組みが理想的な状態 B：取り組みがほぼ出来ている

C：取り組みにもう少し努力が必要 D：今後十分な努力が必要

保育士 8 名

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
1 園の理念・保育方針の理解						
	○園の保育理念や保育方針を理解している。	1	7			B
2 保育所保育指針の理解						
	○保育所保育指針を理解していると思う	1	6	1		B
3 保育課程の理解						
	○園の保育課程を理解していると思う。	1	7			B
4 子どもの発達援助						
	○一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	2	6			B
	○定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。	2	6			B
	○指導計画を作成する際、園の理念や保育課程を基にして作成している。	2	6			B
	○一人ひとりの子どもに関する発達状況、保育目標についての記録がある。	2	6			B
	○一人ひとりの子どもに関する情報を周知している。	3	5			B
	○一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話しあう為のケース検討を必要に応じて実施している。	2	4	2		B
5 健康管理						
	○保健年間計画に基づき子どもの健康管理を行っている。		8			B
	○身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	3	5			B
	○乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防に努めている。	7	1			A
	○感染症の予防に努め保護者にも伝達している。	3	5			B
	○登園時は視診や検温により子ども一人ひとりの健康状態を確かめている。	5	3			A
6 食事						
	○食育を通して子どもたちが楽しく食べ、その中で食べる意欲が育つように配慮している。	5	3			A
	○調理担当者と子どものコミュニケーションが図れるようにしている。	2	5	1		B
	○月齢に応じた食事の量や形態(固さや大きさ)を理解し成長を促すことが出来る。	2	6			B
	○その日の喫食(哺乳量)を保護者に伝えている。	5	3			A
	○食事のマナーの基本的な考え方を理解し、子どもや保護者に伝えることが出来る。	1	7			B
	○保育士と調理担当者が積極的に意見交換をし連携しながら食育活動を行っている。	3	5			B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
7 保育環境						
	○気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。	2	5	1		B
	○心地良く過せるように、環境を整えている。(清掃、整理整頓、室内装飾、作品展示等)	3	5			B
	○屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	3	5			B
	○生活の場面に合った保育者の声、音楽などの音に配慮している。	2	6			B
	○子どもが自ら活動を展開して行けるような場や空間の構成をしている。		7	1		B
	○季節の変化に応じた環境構成をしている。	2	5	1		B
	○子どもの動線や目線に配慮した環境構成をしている。		6	2		B
8 保育内容						
① 子どもへの理解と受容						
	○子どもに分かりやすい温かな言葉使いで、穏やかに話している。	1	7			B
	○抑制したり、せかしたりする言葉を必要以上に使わないようにしている。		6	2		B
	○子どもの伝えようとする事に耳を傾け、何を求めているのかを理解し適切に対応している。		8			B
② 基本的生活習慣						
	○基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。	1	7			B
	○着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。	4	4			A
	○安心して休息〔昼寝〕が出来るように配慮している。	4	4			A
③子どもの活動への関わり方						
	○子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。		7	1		B
	○好きな遊びが自由に出来る時間やコーナーを用意している。	2	6			B
	○身近な動植物に接することにより、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むように配慮している。	2	6			B
	○散歩などを通して地域の方々に接しあいさつや言葉を交わすなどしながら社会性を育む工夫をしている。	2	6			B
	○絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	6	2			A
	○身体を使った様々な表現遊びを取り入れている。		7	1		B
	○様々な素材を使い、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている	2	5	1		B
	○年齢に応じ、順番を守る等の社会的ルールを身につけていくように配慮している。	1	6	1		B
	○相手の気持ちが分かるような声掛けや働きかけをしている。	2	6			B
	○色々な運動遊びを工夫しながら取り入れている。	1	7			B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
④乳児保育						
	○授乳は子どもが欲しがるときに抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	2	5		1	B
	○離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	3	5		1	B
	○オムツ交換の際は優しく声をかけたりスキンシップを取りながら行っている。	3	5			B
	○一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠が出来るように静かな空間が確保されている。	2	6			B
	○外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	5	3			A
	○乳児の発達段階を理解し、個々の成長や場面場面での適切な対応に努めている。	3	4	1		B
	○特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している。	2	6			B
⑤長時間保育						
	○子どものその日の様子を職員間で伝達し合い、連絡事項などを確実に保護者に伝えるようにしている。	3	5			B
	○長時間保育で不安にならないように家庭的な雰囲気を作り、安心して過せるように配慮している。	1	7			B
	○一人ひとりの子どもの要求に応じて声をかけたり、必要に応じ抱いたり等、ゆったりとした気持ちで接している。	1	7			B
9 安全・衛生・危機管理						
	○危機管理意識を常に持ち緊急時への対応が整えられている。	1	7			B
	○緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。	4	4			A
	○事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。	4	4			B
	○食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。	2	6			B
	○園内に危険な箇所や物がないか、危険な遊び方はないか等、常に確認している。	2	5	1		B
10 守秘義務						
	○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	7	1			A
11 保護者支援〔入所園児〕						
	○個々の子どもの様子は送迎時に直接話したり連絡帳等を使い伝え合っている。	5	3			A
	○クラスや子どもの様子、保育のポイント等をクラス便り等で知らせている。	4	4			A
	○クラス懇談会や個人面談を行っている。		6	2		B
12 地域への子育て支援						
	○子どもの発達や育児の不安等を気軽に相談できるように育児相談、栄養相談を行っている。		3	1	3	D
	○一時保育の際、子ども一人ひとりに丁寧に関わっている。					

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
13. 特別な支援を要する子どもへの対応						
	○特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	2	5	1		B
14. 保育の質の向上 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）						
	○保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		6	2		B

園全体の評価

4月より保育士2名が入り、さらに園長も交代となり今までの職員には大きな変化の年であった。また、コロナの感染防止もあり、保護者の皆様には玄関前での対応とさせていただき、懇談会、保育参加も中止という、残念な1年となってしまったが、運動会はクラスごとで行い、誕生会、食育など保育の様子は写真におさめてお便りにして毎月複数回お伝えしてきた。また、ヒヤリキヤットは先生方の意識が変わってきたため入力件数が増え、毎週ヒヤリキヤット会議をすることで、お互いに危機感を共有し、危険回避に努めた。それでも受診する怪我が起きてしまい、その都度同じ事故を起こさないための反省会をもち、当事者だけでなく、職員全員が事故防止について継続して考えている。

「課題についての評価」

- 1、全体的な計画と保育所保育指針の浸透⇒個人差がありまだ浸透できていない職員もいる。
- 2、新体制による正しい組織づくり⇒園長と主任、主任とスタッフは円滑な関係ができており、お互いに信頼関係ができています。
- 3、受診に至る怪我を0にする⇒受診する怪我が起きてしまった。
- 4、ヒヤリキヤットを有効に使う⇒ヒヤリキヤットの入力件数が増え、予測されるけがは減少していると言える。例：かみつき、引っかきのけがはほとんどなかった。

来年度の課題

- 1、コロナ感染防止対策は万全に行いながらも、保護者様に保育の様子を十分伝えられるようコドモンを活用していく。また、行事など参加できる方法を考えていく。
- 2、さらに子どもの発達について理解を深め、それぞれの発達に見合った保育を展開していく。（季節の歌、リズム、制作について再度見直していく）
- 3、子どもの特性をしっかりと見極め、怪我につながる行動を検証し、怪我を防ぐことができるように努める。

